2026 年 11 月 5 日

株式会社医学書院
NTT 株式会社
NTT ドコモビジネス株式会社
Ubie 株式会社
NTT 東日本関東病院

# 医学書院、NTT、NTT ドコモビジネス、医療現場での「信頼できる AI」の実現に向け、Ubie と医療 AI 情報プラットフォームの共同実証を開始

～信頼性の高い医療情報を医療従事者に届けるため、NTT 東日本関東病院で検証～

株式会社医学書院（本社：東京都文京区、代表取締役社長：金原 俊、以下「医学書院」）、NTT 株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：島田 明、以下「NTT」）および NTT ドコモビジネス株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：小島 克重、以下「NTT ドコモビジネス」）は、医療現場で安心して AI を活用できる環境の実現をめざし、2026 年 11 月から、Ubie 株式会社（本社：東京都中央区、共同代表取締役：阿部 吉倫・久保 恒太、以下「Ubie」）と医療 AI 情報プラットフォームを活用した共同実証（以下「本実証」）を開始します。

本実証では、医学書院、NTT、NTT ドコモビジネスが共同開発した医療 AI 情報プラットフォームと Ubie の医療機関向け生成 AI サービス「ユビー生成 AI」を用い、NTT 東日本関東病院（所在地：東京都品川区、院長：大江 隆史）を実証フィールドとして検証を行います。

## 1．背景と目的

医療現場で生成 AI を活用するには、患者情報の適切な取り扱いや利用・運用の管理に加え、回答の根拠を確認できることが重要です。特に、AI が事実と異なる情報を生成するハルシネーションによる誤診のリスクや、患者情報の不適切な取り扱いといった懸念への対策も含めて、医療従事者が安全、かつ、適切に生成 AI を活用できる環境作りが求められます。

このような背景を踏まえ、医学書院、NTT、NTT ドコモビジネスは 2026 年 4 月、信頼性の高い医学・医療情報と AI、セキュリティなどの技術を組み合わせ、検索拡張生成（RAG）等の技術を用いて医療現場で安心して AI を利用できる「医療 AI 情報プラットフォーム」の共同開発を開始しました。

今回、その社会実装に向けて、医療 AI 情報プラットフォームと Ubie の「ユビー生成 AI」を連携し、NTT 東日本関東病院で共同実証を行います。生成 AI を用いて、信頼性の高い医療情報を医療従事者に届ける仕組みの有用性と安全性を検証し、医療従事者が生成 AI を安心して活用できる環境の実現をめざします。

## 2. 取り組みの内容

本実証では、医学書院、NTT、NTT ドコモビジネスが共同開発した医療 AI 情報プラットフォームと、Ubie の医療機関向け生成 AI サービス「ユビー生成 AI」を連携し、NTT 東日本関東病院の医療従事者に利用いただきます。

医療従事者が「ユビー生成 AI」に質問すると、医療 AI 情報プラットフォームが、医学書院が持つ正確で信頼性の高い、適切に著作権処理された医学・医療情報を、的確に検索・参照します。NTT の AI に関する研究開発の知見と NTT ドコモビジネスのプラットフォーム構築・運用技術を組み合わせ、回答とともに根拠となる情報や出典を提示します。

このことにより、医療従事者は、電子カルテ端末から直接質問し、院外のサービスに切り替えることなく、必要な医療情報を確認することが可能となります。

本実証では、この仕組みを実際の診療業務で利用し、必要な医療情報の収集が効率化されるかを検証するとともに、回答および根拠情報の有用性と安全性を検証します。あわせて、医療現場への導入・運用に必要な機能や条件を整理し、医療現場の実態や医療制度改革の方向性を踏まえて、医療 AI の社会実装に向けた課題と今後のあり方を検討します。

主な検証項目は、以下のとおりです。

- 医学・医療情報の検索・確認に要する時間の短縮
- 回答内容および根拠情報の有用性・信頼性
- 診療業務で利用する際の操作性・利便性
- 医療現場への導入・運用に必要な機能と条件
- 医療 AI の社会実装に向けた制度・運用上の課題

## 3. 各社の役割

・医学書院

第一線の著者による執筆と、長年培った編集ノウハウにより蓄積された、科学的根拠に基づく信頼性の高い医学・医療情報を提供

・NTT

医療制度や医療現場の実態を踏まえ、研究開発の知見を活かしながら、NTT グループ全体で医療分野における AI 活用の社会実装を推進

・NTT ドコモビジネス

医療 AI 情報プラットフォームの構築・運用、生成 AI サービスとの API 連携、ネットワークやクラウドを含む医療現場への実装環境の構築、および共同実証の設計・評価

・Ubie

医療機関向け生成 AI サービス「ユビー生成 AI」の提供、および医療従事者が利用するインターフェース・ユーザー体験の設計、実証を通じた評価・改善

・NTT 東日本関東病院

実証フィールドの提供、医療従事者による実利用を通じた有用性・実用性などの評価、および医療現場の知見に基づくフィードバック

## 4．今後の展開

本実証で得られた知見をもとに、医療 AI 情報プラットフォームの機能と運用を高度化し、他の医療機関や医療 AI サービスへの展開を進めます。

また、医療機関ごとに異なるシステム環境やセキュリティ要件に対応するため、クラウド、閉域ネットワーク、オンプレミスなど、それぞれの利用環境に応じて生成 AI を安全に活用できる提供形態の実現を図ります。

さらに、NTT の大規模言語モデル「tsuzumi」を含む AI 基盤モデルの活用を進め、特に高い信頼性が求められる環境にも対応した医療 AI 情報プラットフォームの実現をめざします。

将来的には、電子カルテや医療機関向けサービスなどとの連携を視野に、情報検索・確認にとどまらない医療従事者の業務支援を推進し、医療従事者の負担軽減と医療の質・安全性の向上に貢献してまいります。

こうした取り組みを通じて、医療従事者や患者が信頼性の高い医療情報を必要なときに活用でき、医療 AI を安心・安全に継続利用できる環境の実現をめざします。